

募集期間延長

求職者支援訓練・実践コース（農業分野）

# 農業総合実践科

～農畜産物の生産から加工・販売まで広く学ぶことができます～

訓練実施施設名：日本農業実践学園

令和3年  
3月開講生募集！

- 農業をやってみたいけど、何から始めていいかわからない方のために、農産物（米・野菜・果樹）、畜産（牛・豚）、農産加工、流通・販売サービスまでを体験しながら、農畜産物の生産技術・加工販売技術を学んでいただくコースです。全国から受講者を募集いたします。

「求職者支援制度」とは、雇用保険を受給できない求職者の方が、職業訓練によるスキルアップを通じて早期就職を目指すための制度です

- 「求職者支援訓練」又は「公共職業訓練」を受講できます  
※原則として、受講料は無料、テキスト代などは自己負担になります
- 訓練期間中及び訓練終了後もハローワークと連携して積極的な就職支援を行います
- 収入、資産などの一定要件を満たす方には、訓練期間中、国から「職業訓練受講給付金」が支給されます（詳しくはハローワークへお問合せください）



訓練対象者の条件：特になし

訓練目標・仕上がり像：農畜産物の生産、付加価値を高めるための食品加工、商品の販売と、生産から販売に関する基本的な知識・技能を有し、将来、農業生産法人等にて幹部を目指すことができる人物

取得できる資格：刈払機取扱作業者、小型車両系建設機械、日本農業技術検定3級

訓練内容：（学科および実技）就職支援（履歴書・職務経歴書の書き方・面接指導）、農業概論、安全衛生、農作業実習（1～5）、畜産実習、農産加工実習、販売実習、職場見学

訓練期間：令和3年3月19日（金）～令和3年9月17日（金）（6ヶ月）（663時間）

※訓練休日は土・日曜、他日別計画表による

訓練時間：9時00分～17時00分（うち休憩時間120分の内訳：昼食休憩60分、その他休憩60分）

定員：15名（応募状況によっては訓練を中止する場合がございます）

<問合せ先・申込み先（郵送先）・訓練場所>

訓練実施機関名：公益社団法人 日本国民高等学校協会

訓練実施施設名：日本農業実践学園

TEL 029-259-2002 FAX 029-259-2647 担当：松尾・高橋

受付時間 9:00～17:00（月～金） 9:00～12:00（土曜）

〒319-0315 茨城県水戸市内原町1496

ホームページアドレス <https://nnjg.ac.jp> Eメールアドレス：nichinou@nnjg.ac.jp

**応募方法：**①管轄ハローワークで募集締切日の前日までに求職申込の手続きを行い、職業相談の上、「受講申込書」「受講申込・事前審査書」等を受け取ります。

②「受講申込書」「受講申込・事前審査書」、添付すべき確認書等を募集期間内にハローワークへ提出してください。内容確認後、「受講申込書」が交付されます。

③ハローワークから交付された「受講申込書」を下記問合せ先まで（持参または）郵送してください。3/2（火）消印有効。

※応募受付後、選考のご案内を全員の方に郵送致します。

**募集期間：**令和3年1月26日（火）～令和3年3月2日（火）

※締切日の前日までに管轄のハローワークでの求職申込と職業相談が必要です。

**選考日時：**令和3年3月5日（金）10：00～

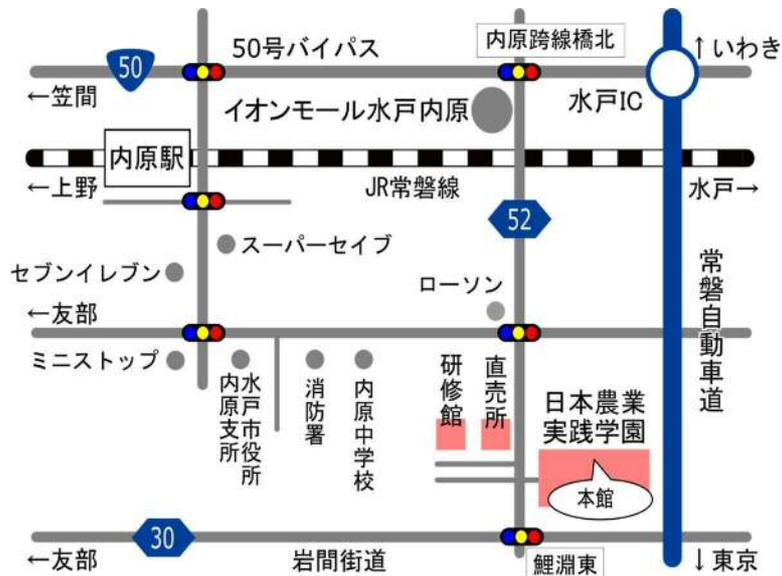
**選考方法：**面接による

**持 物：**筆記用具

**選考結果発送日：**令和3年3月9日（火）

**申し込み先および選考会場：**〒319-0315 茨城県水戸市内原町1496  
日本農業実践学園

**自己負担額：**受講料は無料。教科書代 2,000円（税込）、作業服・長靴・雨合羽・軍手 各自ご用意ください。資格取得費用 刈払機取扱作業者 10,000円（税込・任意受験）、小型車両系建設機械 14,000円（税込・任意受験）、その他：希望者は昼食 1食350円（税込）、希望者は寮有（6ヶ月、3食込¥240,000税込）、無料駐車場有（15台）



- JR常磐線・内原駅より徒歩20分、タクシー5分
- 常磐自動車道・水戸ICより車10分

- ・選考試験は、応募いただいた方全員が対象となります。試験当日に欠席された場合は辞退とみなしますので必ずご参加下さい。
- ・結果通知は郵送により通知させていただきます。なお、電話によるお問い合わせには応じかねますのでご了承ください。
- ・申込時に提出いただいた関係書類の個人情報は、個人情報保護に関する法律を遵守し、適切に管理いたします。

**<日本農業実践学園 学園概要>**55haの敷地を保有し、実際に作物や家畜を育てながら販売までを実践的に学べる学校です。学校のある水戸市は気候的にはちょうど日本の中間地にあたり、さまざまな作物を育てることが出来ます。学校が保有する水田、畑、家畜、果樹と、堆肥利用などを通じて循環型農業を実践しています。

※感染症防止対策に取り組んでいます。マスクの着用を徹底、教室では入口にアルコールを設置し、定期的な換気に努めています。